全国知事会　第３２回新型コロナウイルス緊急対策本部会議
蒲島熊本県知事コメント

まず、本県の感染状況ですが、連日のように、新規感染者数が過去最多を更新しており、ここ３日間は１０００名を超えています。
また、最大確保病床使用率も昨日時点で４９％となり、ひっ迫が進んでいます。
そのため、昨日、本県のリスクレベルを「３」に引き上げ、県民の皆様へ、改めて対策の徹底を呼びかけました。
併せて、緊急時確保病床の活用や、新たな宿泊療養施設の確保など、医療提供体制の強化も進めています。
しかしながら、感染症対策の要である保健所の業務もひっ迫しており、正直なところ、これまで以上に先の見通しが立てられない状況です。
このような中、本日は２点申し上げます。

１点目は、国による丁寧な情報発信についてです。
感染症対策は、国と地方が団結して、国民の協力を得ることが大前提であり、そのためには丁寧な情報発信が重要です。
一昨日、国から「レベル３」への移行を全国統一的に取り扱うため、国の考え方と異なる場合は、都道府県が設定したレベル指標の見直しを求めるという通知が発出されました。
以前、私も申し上げましたが、全国知事会からレベル判定のための統一的な指標を設定するよう国へ提言しました。
しかしながら、病床使用率等の一部の指標はあるものの、「都道府県知事が総合的に判断する」という取扱いは変更されませんでした。
それにも関わらず、今になって、「レベル３」へ移行する指標の見直しを求めるとともに、自宅療養を基本とするかのような方針が、突然示されました。
これだけ感染が拡大している中で、丁寧な説明も無いままに、急に方針が変更されれば、県だけではなく、県民にも大きな混乱が生じかねません。
全国的に、これまでにない勢いで感染が拡大しているため、国において、様々な方針を臨機応変に見直すことは必要だと考えています。
その際には、時間的余裕を持って、都道府県や国民への丁寧な説明を、是非お願いしたいと思います。

２点目は、ワクチン接種についてです。
市町村と連携して、追加接種の加速化に全力で取り組んでいますが、県民の皆様の中には、交互接種に不安を感じる方もいらっしゃいます。
そのため、私自身も交互接種することで、県民の不安を解消したいと考えています。
国においては、交互接種の効果や安全性について、更に強力に発信していただきたいと思います。

以上